

自治体の ITコーディネーター活 ～外部専門家活用事例～

地域を元気にしていかなないと、日本は元気にならない!

— 総務省情報流通行政局地域通信振興課 —

時間制のスポット契約で気軽にITCへ相談

— 熊本県・熊本県庁 —

外部の専門家を「CIO補佐官」として登用

— 東京都・八王子市（人口約56万人） —

ITコーディネータの協力で短時間で基幹システムを構築

— 大阪府・交野市（人口約8万人） —

業務分析にITコーディネータの知恵を活用

— 秋田県・湯沢市（人口約5万人） —

自治体、行政での外部専門家活用が増えています。

その中でも‘中立公平なITコーディネータ’の活用は、自治体に有益だと考えます。

2010年からITコーディネータ協会は、自治体を支援できるITコーディネータ仲間を増やして来ました。その成果も徐々に目に見えるものになってきていると実感します。

今号の特集「自治体のITコーディネータ活用 ～外部専門家活用事例～」では、総務省様をはじめとして、効果的な外部専門家（ITコーディネータ）活用を進めておられる4つの自治体（熊本県庁様、東京都八王子市様、大阪府交野市様、秋田県湯沢市様）に登場いただき、その成果事例をご紹介します。

外部専門家（ITコーディネータ）を活用した結果、抱えていた課題がどのように変化・解決していったのか、その結果、たとえば住民へのサービス向上・経費削減など、どのようなメリットが得られたのか。

自治体職員の皆さまには地域のご紹介、ITコーディネータとの出会い、ITコーディネータを活用してみた感想、今後の展望を。

ITコーディネータには自治体支援のきっかけ、支援時に気を付けていることなどをお聞きしています。

今後、社会保障・税番号制度の導入も控え、全国1800弱の自治体職員の皆様にはさらに負荷が増えてくるこの時に、外部専門家としてのITコーディネータを業務支援者として活用するメリットはますます大きくなっていくと思います。

自治体職員の皆さま、ITコーディネータの皆さまをはじめ、多くの皆さまに参考にしていただければ幸いです。

ITコーディネータ協会 事業促進部 山川 元博

自治体のITコーディネータ活用 ～外部専門家活用事例～

ITコーディネータの協力で短時間で基幹システムを構築

－大阪府・交野市（人口約8万人）－

天の川伝説が残る 「星のまち」交野市

交野（かたの）市は、大阪府の北東に位置し、西は寝屋川市、南は四條畷市、北は枚方市と接している。近年、JR東西線、第二京阪道路の開通により電車と自動車の両面で交通の利便性が高まり、大阪市と京都市のほぼ中間の位置ということもあり、ベッドタウン化が進んでいる。人口は約7万8,000人（2013年5月現在）。

「星のまち☆かたの」という市のキャッチフレーズがあるが、交野市には星にまつわる地名、伝説が多い。その中のひとつが、市の中心部を流れる天野川だ。

稲作が始まったころ、この地はあまの（甘野）といわれており、河川を甘野川といったことが天野川の由来。それを平安時代、交野が原へ遊獵に訪れていた宮廷人が歌合わせの際に、夜空に星の連なる「天の川」になぞらえたことからこの名が定着したという。そして、天野川にか

かる橋も「逢合橋」（あいあいばし）と呼ばれ、年に一度、棚機姫（たなばたひめ）と牽牛星（けんぎゅうせい＝ひこぼし）が会った場所と伝えられている。

毎年8月には「織姫の里天の川星まつり」が開かれ、「織姫パレード」のほか、盆踊りや各種イベントが開催される。また、おりひめちゃん、星のあまんという市の“ゆるキャラ”も登場しイベントを盛り上げている。

わずか4カ月で 新システムのベンダー選定を

交野市のIT関連の業務を担当するのは総務部情報課という部署。ここでは、広報、情報政策、情報公開、統計など「情報関連」の全般を担当しているが、その中でも情報政策部門は基幹系のシステムの運営・管理から職員へのソフトウェアの指導まで幅広い業務をこなしている。専任の職員は2名のみ。

それだけに、内部の職員だけでは多様化する業務に対応することができず、現在は外部の専門家としてIT

コーディネータの力を借りている。

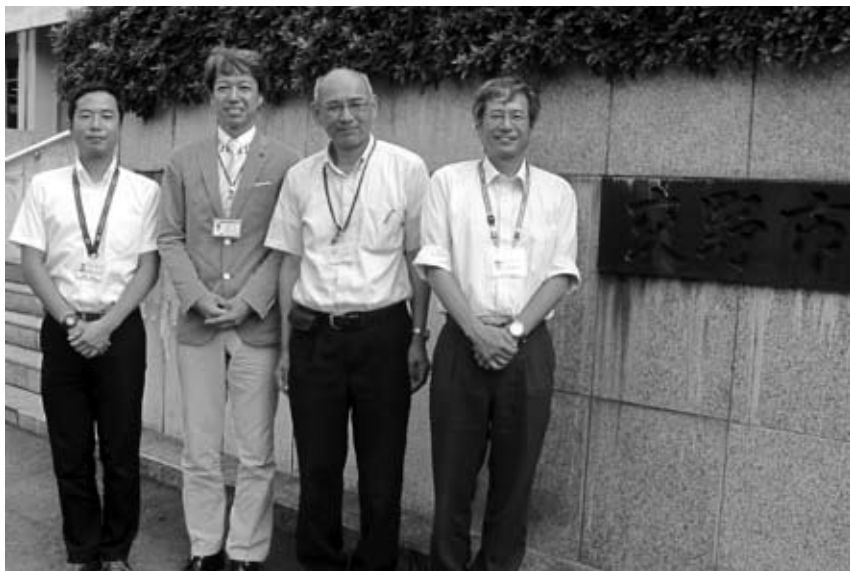
ITコーディネータの新田実氏は、もともとITベンダーの社員として10年以上にわたり交野市を担当してきた。ITコーディネータの資格を取得しこの会社を退職。平成22年8月、数年ぶりに交野市を訪ねてみたという。当時の市の担当者は、以前、ベンダー時代にお世話になった方で、システムの入替えがうまくいっていないことを聞かされた。

平成22年8月当時は30年以上前に導入された基幹系システムが稼働していたが、かなり古いシステムのため、新しい業務などに耐え切れなくなっていた。また、ハードも老朽化して性能が低いものだった。しかも、平成22年度末で保守の契約が切れる。

新しい基幹系システムの選定はその年の12月末まで。その期限まではあと4カ月しかないが、まだ何も決まっていなかった状況だったという。

新システム導入の検討会は立ち上がっていたが、全然先には進んでいない状態だった。それを見て、オブザーバーとして参加していた新田氏はかなり危機感を感じたという。そこで、アドバイザーという無償の契約ながらこの検討会に参加した。

総務部情報課の寺島孝彦氏は「検討会の出席者は専門家ではないので、限界がありました。また、現場の担当者と情報課では温度差もありました。そこで、外部の専門家の知見を生かして、この状況を打破しようと思いました。利害関係のないITコーディネータはまさに適任でした。そして、新田さんには、市としてのあるべき姿の意見をいただくことができました」と当時の様子を語る。



交野市市役所前にて。写真右から、交野市総務部情報課 課長代理 寺島孝彦氏、同情報課次長 櫻井清司氏、ITコーディネータ 新田 実氏、同情報課 高橋良典氏

職員とベンダーの 間を取り持つ役割も

12月末という期限が決まっていたので、新田氏はまずはきちんとしたロードマップ作りから着手した。それは基幹系すべてのシステムについて、4カ月でRFPを出して、ベンダーを選定するという、一見すると実現不可能なロードマップだった。

しかし、新田氏が担当者に手順を指導してからは、プロジェクトは急に動き出した。それまでは、どうしたらよいのか職員には方法が分からなかったからだ。

当時の情報課の担当者の尽力もあり、何とか期限までに業者選定を終えた。

そして、平成24年2月からの新システム稼働へ向けさらにプロジェクトを推し進めていったが、新たな問題も発生した。新しいシステムは、前のシステムと基本設計概念がまったく異なる。しかも、メーカーはライバル関係にある会社。その調整を職員に任せていたら進まないと判断した新田氏は、自らその役を買って出た。

しかも、新ベンダーは初めての付き合いなので、斜め上からの目線で職員のことを見てきたという。

「最初は本当に上から我々のことを見ている感じでした。今は同じ目線、同じ仲間になったとい

う感じです。お互いの立場も理解できるようになってきた。ここまでの関係になったのも、新田さんがベンダーや職員を叱咤激励してくれたおかげです」(寺島氏)。

情報課を統括する櫻井次長も新田氏を大きく評価している。

「新田さんは、ベンダーと職員の両方の目線を持っていたことがとてもありがたかった。それはコーディネータの必要な要素。奇跡的な、綱渡りのシステム構築だったので、それを乗り切れたことは、感謝してもしきれない。人柄もいいので、職員からの信頼も厚いです」と絶対の信頼を寄せている。

プロポーザル方式導入で 大きな削減効果が

さらに、新田氏は市にとって大きなアドバイスも行った。それまで、市の職員は入札か随意契約しか知らなかったが、新基幹システムの導入にあたり「プロポーザル方式」を導入した。この方式を採用したことにより、当初はじいた予算から1億円以上コストが削減できたという。

「最近システムの調達があると、庁内でもみんな『プロポーザル、プロポーザル』と言っていますよ」(寺島氏)。

入庁前は民間企業のSEをしていた情報課の高橋良典氏も新田氏を高く評価している。

「僕の場合、職員とベンダーのどちらの立場も分かるので、全体最適を図る場合、どちらの味方にも付きにくいケースが多かった。なので、新

田さんには職員とベンダーの合意形成をするファシリテーターをお願いしていました」

そして新田氏に対しては、今後も大きな期待がかけられている。

「職員のレベルが上がってきましたが、今後は全体を俯瞰して見ることができる、一段階上の人材を育てるお手伝いをしてほしいですね」と寺島氏は言う。

一方で新田氏はこうも語る。

「外部の人間がコーディネータとして、長く居座るような状態では成功といえません。医者と同じで、ずっと関わっていても健康ではないと思うのです。何かあったときだけ呼んでもらうのがいいですね」

そういう意味では、職員の中にITコーディネータがたくさん誕生してくれたらうれしいという。

最後に、情報課のみなさんにITコーディネータなど外部の専門家に対する要望を聞いてみた。

「職員は不安を持っている。なので、まずは聞く耳を持ってほしいです。できれば愚痴も聞いてほしい。みんなの気持ちをくみ取れるような方を求めています」(櫻井氏)

「上から目線だと困ります。同じ目線を持つことが重要です。他の大阪の市からも問い合わせがあるので、ITコーディネータはいいですよ、といつも言っています」(寺島氏)。

「課題をきちんと解決してほしいのですが、条件などはいろいろで解決策も1つではないので、その町に合った解決策を提案できる人がいいですね」(高橋氏)

〈自治体概要〉

交野市

人口：78,118人(2013年7月現在)

面積：25.55平方キロメートル

市役所所在地：大阪府交野市私部一丁目1番1号

市役所職員数：520名(平成25年度)

<http://www.city.katano.osaka.jp/>



今年8月に開催された「第3回織姫の里の川星まつり」の様相